



堀船中だより

心身ともに健康にして、国際的視野に立って社会に貢献し、自立した人を育成する。

教育目標

自ら学び 自ら考え 自ら行動できる生徒

<いよいよ本日6月1日から分散登校始まりました>

新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言もようやく先週解除されました。生徒のみなさんも保護者のみなさまも「やっと、学校がはじまった」と、安堵されていることと拝察いたします。しかし、都・区の方針に基づいて、6月13日までは分散登校となり、先日お知らせいたしました通り、各クラスを二つのグループに分け、午前・午後を交互に行います。この間は、給食もありませんので、ご家庭には変わらずご負担をおかけしてまいります。また、登校前にはお子様の検温、マスク着用等、ご理解・ご協力のほどお願いいたします。学校生活におきましては、密閉・密集・密接を避けて最大限、感染防止対策に努めて参ります。

<5月11日(月) 課題受け渡しの様子>



5月11日は青天となり、どの学年の生徒のみなさんも、予定時刻より早く登校して、ソーシャルディスタンスに配慮し、きちんと並んでくれてとても助かりました。

<学習支援動画配信をおこないました>



臨時休業中の家庭学習をさらに支援するために、毎週月曜日・木曜日に動画配信をおこないました。動画配信サービスYouTubeで、各教科等から課題のポイント解説や授業解説等35本配信をいたしました。

北区メール配信サービスを活用し、堀船中の保護者の皆様へ一斉メールにて限定公開のURLをお知らせしました。各ご家庭でお子様と情報を共有して動画による学習支援にご協力いただきまして、本当にありがとうございました。

<堀口主任教諭の産休に伴う教科担当変更のお知らせ>

本校堀口千尋主任教諭が出産のため6月1日(月)から産休に入ります。

そのため、教科担任が下記のとおり変更になりますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

【変更】

産育代替教諭 赤平 圭子 (あかひら けいこ)

国語科 2学年所属 《平成26年3月31日まで本校に勤務されておりました》

王子を「近代の大工業地♪」（堀船中校歌の一節）へと発展させた人物とは？

【王子は日本のリッチモンド】

明治時代に日本にやってきたイギリス人たちの間で、王子は、イギリスのリッチモンドだという評判が立っていたそうです。リッチモンドとは、イギリス ロンドンの西南に位置する行楽地で、英国の王立植物園があり、テムズ川も近くを流れる風光明美な地域です。

王子には、飛鳥山があり江戸時代からの桜の名所でした。また周囲には音無川（石神井川）が流れる自然と水に恵まれた地域で、王子権現もあり、行楽地として親しまれてきました。明治当初の外国人は乗馬を楽しみながら、都心から王子までやってきたのです。

【桜の名所から大工業地へ】

王子は、幕末から明治にかけての時期に大きく変化しました。

そのきっかけとなったのは、明治6（1873）年、千川上水のきれいな水と石神井川の流れを利用して洋紙を製造する「抄紙会社」（後の王子製紙）の設立です。この「抄紙会社」を設立したのが、2024年新紙幣1万円札肖像に選ばれ、2021年NHK大河ドラマ「青天を衝（つ）け」の主人公の渋沢栄一です。

渋沢栄一といえば、第一国立銀行（現・みずほ銀行）、人造肥料（後の日産化学）、日本煉瓦、東洋製鉄（現・日本製鉄）、東京瓦斯（現東京ガス）、東京海上火災保険（現 東京海上日動）、帝国ホテル、東京証券取引所、清水建設、秩父セメント、キリンビール、東洋紡績など約500社もの企業の設立に関わった、「日本資本主義の父」と呼ばれた偉大な人物です。

この「抄紙会社」の跡地である王子駅前サンスクエア付近に「洋紙発祥の地」の石碑が建っているのは皆さんもご存じだと思います。渋沢栄一がここに製紙工場をつくったことにより、紙幣等をつくる大蔵省印刷局もできました。また当時はパルプを製造する工程で、硫酸が必要でした。その硫酸も、渋沢栄一が関係した関東酸曹（後の日産化学）が製造していました。さらに王子製紙など製紙業界では、紙すきの際に乾かすのに、フェルト（動物の毛を圧縮してシート状にした繊維品）を使用することからフェルト工場（現 日本フェルト）も創業しました。このように、王子の町は渋沢栄一が創業した抄紙会社（王子製紙）を拠点とする紙の一大コンビナートが形成されていたのです。そう言えば堀船中の付近にも紙を使用する、東京書籍・リーブルテックもありますね。また飛鳥山には「紙の博物館」もあって、この土地の歴史を物語っています。

【飛鳥山には渋沢栄一の邸宅】

現在、飛鳥山の渋沢史料館・青淵文庫・晩香廬がある場所一帯には明治22年に渋沢栄一の広大な邸宅（別邸）が建てられました。第一国立銀行（現・みずほ銀行）と東京証券取引所のある日本橋兜町には洋館の本邸を建てています。どうして飛鳥山に邸宅（別邸）を建てたのでしょうか。日本橋兜町も飛鳥山も自分の事業に関係のある場所を選んで住んだことは間違いありません。加えて、渋沢栄一は今の埼玉県深谷市の出身です。飛鳥山は日本橋兜町から深谷への道すがらに当たる位置なのです。日本鉄道（後の高崎線）王子駅が開業すると王子から深谷までは直結となりました。故郷の深谷には日本煉瓦を創業し、ここのレンガは東北線で運ばれ、東京駅や旧法務省建設に使われました。

晩年にいたるまで、渋沢栄一は王子駅から汽車に乗り込み、故郷である深谷との往復をしていました。王子は渋沢栄一にとって東京のなかでも故郷に通ずる心安らぐ場所だったのでしょう。

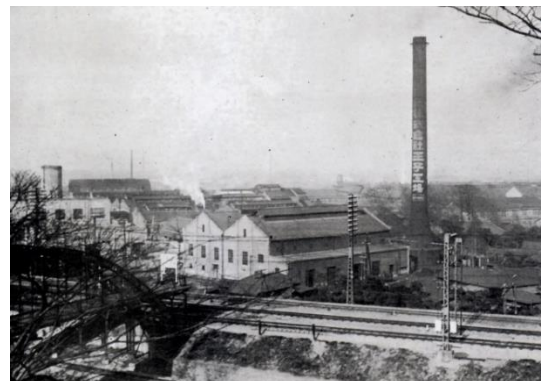
日本のリッチモンドから、堀船中の校歌に謳われる「近代の大工業地♪」へと発展させた人物が、「日本資本主義の父」渋沢栄一なのです。そう考えると堀船中の校歌の歴史的価値を改めて感じることができます。



渋沢栄一（提供区立中央図書館）



王子駅前サンスクエア付近の「洋紙発祥の地」石碑



王子製紙（写真提供区立中央図書館）